

- 9) 田沢美子; レファレンス・サービスについて。ほすびたるらいぶらりあん, 11号, 4~6, 1979
- 10) 石沢実枝; 当図書室のレファレンス・サービス, 同上, 5~6, 1979

- 11) 加島民子; 院外文献複写依頼状況調査報告
日本病院会雑誌 25(1), 39, 1978



編 集 後 記

小誌「病院図書室」第2巻第1号(通巻2号)、発刊が大変遅くれてしまいました。やっとお届けできる運びとなりました。まづ早くから原稿を寄せていただきました。杉本顕俊先生、岩本、三宅両氏に深くお詫び申し上げます。また、事例報告会で発表の後、本誌に掲載のために原稿にまとめたいたゞいた方々にも、提出を促しながら発刊ができましたこと、申訳けなく存じます。

本号は、住友病院の杉本先生、滋賀医科大学附属図書館の岩本速雄氏、関西医科大学附属図書館の三宅恵子氏から玉稿をいただきました。杉本先生は図書室部長のお立場から、病院図書室をとりまく状況を指摘され、岩本・三宅両氏は医学情報網のなかの医学図書館と病院図書室の担うべき方向を論じておられます。いづれもこれからの病院図書室が取り組むべき諸問題を提起されていると思います。以下は前号のように、昨年度の事例報告会の

内容概説を掲載しました。

会誌「病院図書室」は、私達独自の研究発表の場を広げることを目的として創刊されました。まだ2号を重ねただけでは無理なこととは思いますが、会員からの自発的な投稿がなく、誌面が充分活用されていないのが残念です。私達のまわりには、病院図書室でなければ出会えない多くの問題や貴重な経験が沢山あります。その中から何か一つのことを自分の研究課題にしてみたいと思います。「時間がない」という、病院図書室を知る誰もが尤もとする理由で私達の貴重な経験が日の目をみないのでは、将来の病院図書室の進歩は望めないと思います。

これは編集者自身も大いに反省すべきことでありますが、会員の方々にも大いに期待して止みません。次号に一人でも多くの参加をお願いいたします。

(1982.3.1. 湯浅・山室 記)